

11月「クローバーだより」(全3ページ)



* 「不登校の要因」に関心をお持ちの保護者さんがたくさんいらっしゃると思いますので、レポートします！

「不登校の要因」になっているものとは、・・・何か？ それに対して、親はどのように対応していくとよいのか？

◆ 「どうして、子どもは、学校に行けなくなったの・・・？」

子どもさんが不登校になり、・・・

「どうして、子どもは、学校に行けなくなったの？」と疑問や不安を感じ、・・・

インターネットや書籍などの様々な方法で、

「不登校の要因」を見つけ出したいと考えている保護者さんが、たくさんいらっしゃると思います。



そこで、11月の「クローバーだより」では、・・・

「不登校の要因」をテーマとして取り上げることにしました。

「不登校の要因」については、・・・

文科省が、毎年、実施している「児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査」において、その結果が公表されています。(注1)

しかし、文科省の調査結果は、児童・生徒の「真」の実態が反映されていない等、・・・

多くの教育専門家からの指摘や批判がなされています。

例えば、調査の回答者は、児童・生徒本人ではなく、・・・学校の教員である等の理由からです。

◆ 「不登校の要因」になっているものとは、何か？ ～NHK 調査結果より～

そこで、以下では、中学生が、直接回答をしている調査を紹介します。

2019年(令和元年)、NHKは、「LINE」を活用し、不登校に関する調査を行いました。

調査対象者は、2018年度に不登校、あるいは不登校傾向であった中学生1,968人です。(注2)

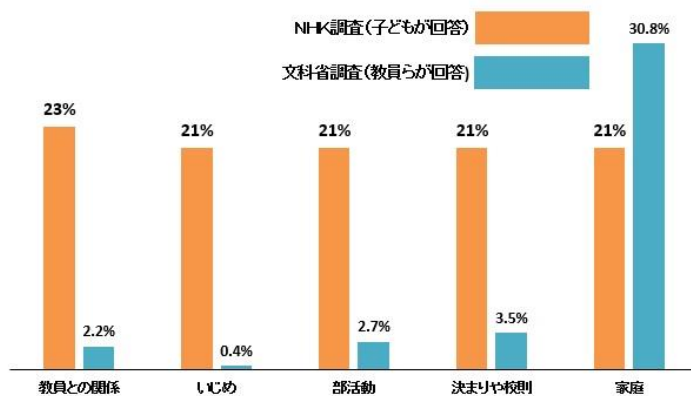
★ 「不登校の要因は何ですか？」という質問に対して、・・・

- ・ 「教員との関係」と回答している中学生が、23%
- ・ 「いじめ」と回答している中学生が、21% (本調査では、詳細は分かりません)
- ・ 「部活動」と回答している中学生が、21% (中・高では、不登校の要因となるケースは実際に多いです)
- ・ 「きまりや校訓」と回答している中学生が、21%
- ・ 「家庭」と回答している中学生が、21% ・ ・ ・ という結果でした。(下図参照)



* 「不登校新聞」記事 → <https://futoko.publishers.fm/article/20440/>

不登校の要因に関するNHK調査と文科省調査の比較 (編集部作成)



★文科省調査の信頼性について

「不登校の要因」について、NHK調査と文科省調査の結果に大きな差が生じている項目があります。

例えば、「**教員との関係**」が不登校の要因と回答している中学生は、NHK調査では**23%**（オレンジ色）であるのに対して、文科省調査では**2.2%**（水色）となっています。

文科省調査の信頼性が問われている所以です。

それらの「不登校の要因」を、私なりに整理してみると、・・・

- ① **先生や友達との人間関係**（教員との関係+いじめ+部活動）
- ② **学校のきまりや校訓といった固定的な価値観**
- ③ **家庭の問題**・・・が、**主な「不登校の要因」**になっていると言えそうです。

また、このグラフには上がっていませんが、不登校が長い期間継続している場合は、

- ④ **学力・進路の不安や悩み**・・・が加わります。

さらに、コロナの感染拡大に伴い、それらに、

- ⑤ **コロナが引き起こす心理的・社会的・経済的不安**・・・が加わってきています。(注3)

小学校低・中学年期には、「愛着（アタッチメント）関係」の不安定さからくる

- ⑥ **母子分離不安**・・・のケースもあります。

したがって、不登校の改善を図るためには、・・・

それらの要因が不登校に影響しているであろうことを念頭に置きつつ、適切で、ていねいな対応をしていくことが大切になってきます。



◆子どもに尋ねてみても・・・「なぜ、学校に行けないのか」、よく分からない!

そこで、保護者は、「不登校の要因」となっている不安や悩みを何とかしてあげたいと考え、・・・

「どうして、学校に行けないの？」

「何か、不安や悩みはあるの？」

・・・と、「不登校の要因」について、子どもに、聞いてあげたくなるかも知れませんが、

しかし、事は思うようには、運びません。なぜかと言いますと、・・・

多くの子どもたちは、心の内が混沌としていて、・・・

「自分が、なぜ、学校に行けないのか」について、**分かりやすく話すことができないからです。**

それは、抑うつ傾向になっている人が、

なぜ、自分は、そのような症状を呈しているのかについて、うまく説明できないのと似ています。

また、仮に、「不登校の要因らしきもの」が、それらしく自覚できていたとしても、**思春期を迎える子どもたちは、そのような質問に対して、拒否的・防衛的で、話そうとしません。**心の「弱さ」を表に出すことに、多くの子どもが、ためらいを感じているからです。

*** しかし、「いじめ」が関係していると思われる場合は、親は、真剣に問題と向かい合わなければなりません。子どもの生命までも脅かす状況に至るケースがあるからです。**

◆ 「不登校の要因」について考えることよりも、まず、「何でも話せる」環境づくりを！

ですから、不登校の改善を図っていくためには、

「不登校の要因」に直接的にアプローチしていくことから方向転換をし、・・・

まず、子どもが、安心して、「何でも話せる」環境をつくることを心がけていきましょう。

例えば、日頃から、・・・

- ・子どもの気持ちや考えを否定したりせず、頷きながらていねいに話を聞きましょう。
- ・双方向の、応答的な親と子どもの会話となるよう、・・・心がけましょう。
- ・親の価値観、大人の価値観を持ち込まず、子どもと同じ目線で向かい合しましょう。



そうすることで、子どもとの会話が、より豊かになれば、・・・

保護者は、その背後にある「**不登校の要因**」(=子どもの不安や悩み)を察することができます。察することができれば、親としての適切な対応もできるようになっていくと思います。

同時に、子どもの側からすると、話を聞いてもらうことで、・・・

自分の気持ちや考えを整理することができます。その結果、徐々に自身の心の安定や元気を取り戻すという効果も期待されるのです。

文責 西村明倫 (不登校カウンセリング&セラピー「クローバー」代表)

公益社団法人日本心理学会認定心理士、メンタル心理カウンセラー

一般社団法人日本 TFT 協会診断レベルセラピスト

参考文献・資料等

注1 令和2年度「児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査」 文部科学省

令和2年度の調査結果では、・・・

「不登校の要因」で最も多いのは、「無気力・不安」で、全体の46.9%となっている。

2番目に多いのが、「生活リズムの乱れ、あそび、非行」で、全体の12.0%となっている。

このように、NHK調査結果と大きな隔たりが指摘される。

注2 「不登校の要因に関するNHK調査」 2019.5.3~5.9 調査協力「LINEリサーチ」

調査に回答した中学生1,968人の内訳は、・・・

不登校が378人、不登校傾向(教室外・部分登校=保健室などへの別室登校)が965人、・・・

不登校傾向(仮面不登校=教室にはいるが、毎日、通いたくないと思っている)が625人である。

注3 「コロナ禍における児童生徒の自殺等に関する現状」 文部科学省 2020.2.15

コロナ感染による様々な影響が出始めた2020年(令和2年)には、全国の小・中学生と高校生の自殺者数は、前年に比べ140人(41.3%)増の479人となり、過去最多を更新した。